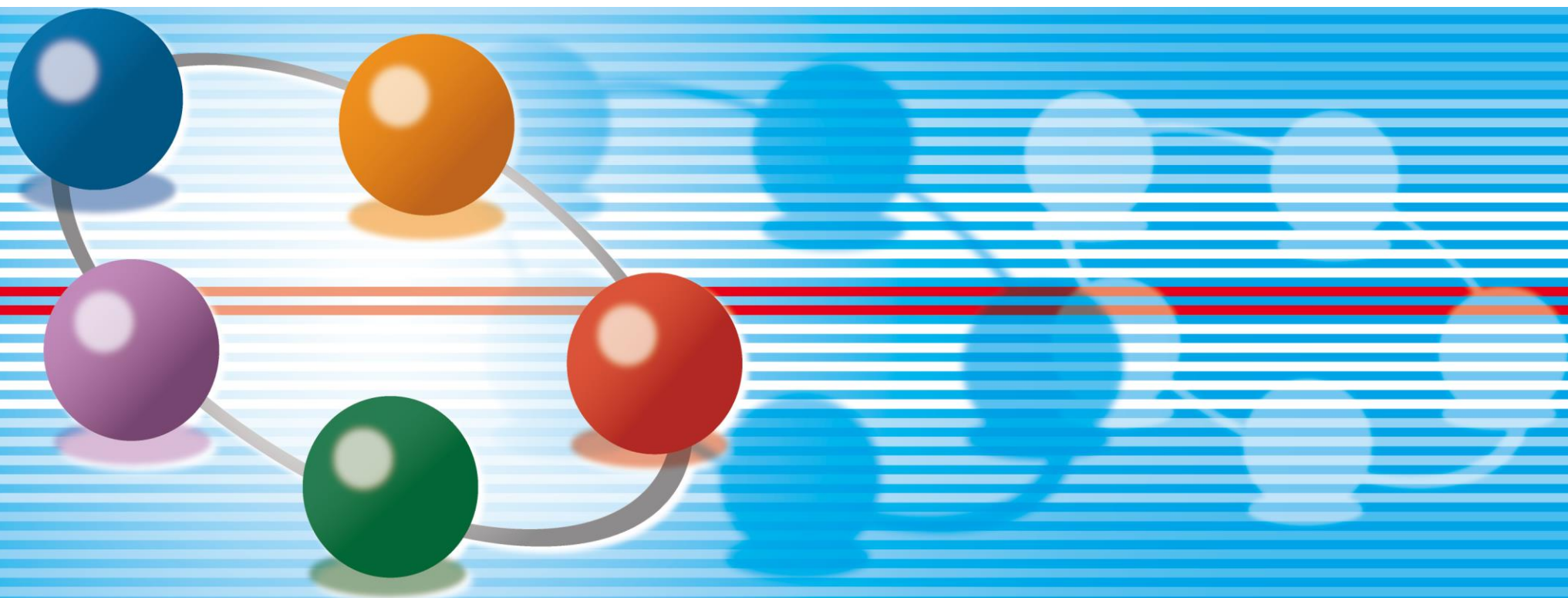




株式会社カワタ 2020年3月期 決算説明会 質疑応答 Q & A

2020年6月5日

(証券コード 6292 東証第1部)



決算説明会（2020.6.5）質疑応答Q & A

Q：リチウムイオン電池関連のスーパーミキサーの販売状況について、前年度対比でどの程度減少したのか。

A：概ね半分程度である。

Q：2020年度業績計画について、数値的には大幅な落ち込みはしないが本格的な回復は見込めないという理解でいいのか。

A：中国については昨年度が大幅に落ち込み苦戦した。今年度については、昨年度と比較してある程度回復するであろうと考える。

Q：現状の生産動向について、コロナウイルス感染拡大の影響もあると思うが、中国、日本、東南アジアでの動きはいかがか。例えば前期第4四半期から今期第1四半期にかけての動向については増加傾向にあるのか、横ばいなのか、減少傾向にあるのか、各地域別に生産の状況についてコメントを伺いたい。

A：当社単体では今年1～3月が前期第4四半期であり、今年4～6月が今期第1四半期である。子会社（エム・エルエンジニアリング株式会社を除く）は10～12月が前期第4四半期であり、今年1～3月が第1四半期である。このことはコロナウイルスによる生産活動における影響時期がそれぞれ異なることを意味する。（続く）

決算説明会（2020.6.5）質疑応答Q & A

（続き）当社単体の前期第4四半期～今期第1四半期でいえば生産の状況はほとんど変わっていない。海外についてはコロナウイルスの影響が今年に入ってからであり、その前と比較して生産活動は減少している。

Q：業績面について、海外では4～6月は3月と比べて傾向として落ちたままか、中国の動向はいかがか。

A：暦ベースで中国はコロナウイルス感染拡大の影響により、2～3月については営業活動がほとんど出来なかった。4月以降に中国社会が動き始め、2～3月に比べると回復傾向ではあるが、それはコロナウイルス感染拡大前の受注分の生産等であり、実体経済としては、まだ回復には時間がかかると考える。日本と東南アジアについては、今年の4～5月はコロナウイルス感染拡大防止の影響を受けたが、営業活動としては6月以降、少しずつ動き始めているところである。

（了）

● お問い合わせ先

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。